

普通期米中干しから穂肥管理情報

1. 生育状況

本年の普通期米については、6月6日に梅雨入りしたものの、梅雨前半は晴天が続き、降水量が平年に比べ少なく、水不足が懸念されていましたが、6月下旬並びに、7月6日、7日の豪雨によって平年並みとなっています。本年度は、晴天の影響から、生育は良好となっています。

田植は梅雨時期の降雨量減少に伴う水不足により、田植期間が平年より1週間程遅延していましたが、6月末で概ね終了しました。水不足の影響で初期除草剤の散布ができていない圃場も散見されました。今後は、中干しから穂肥・出穂時期を迎えるため、生育時期に合わせて適切な管理を徹底しましょう。

2. 水管理

中干しは大変重要な管理となります。中干しが出来ていないほ場では高収量・高品質は望めないため、排水の栓を抜き確実に実施しましょう！！

中干し後から出穂前7日までは間断灌水を実施し溜めっぱなしにならない様に心がけましょう。

出穂7日前（オオバラの時期）から出穂7日後までは深水管理を行う。出穂後は、間断灌水を実施し、夜間は水のカケ流しを実施する。中干しは黒乾状態を維持し、極端な乾かしすぎ（白乾状態）に注意して下さい。

光合成能力の向上や根量の確保をするために、

出穂45日前（中干し開始頃）にケイ酸加里 30kg/反を必ず施用しましょう！！

3. 穂肥目安

穂肥は、収量に影響を与える大変重要な作業となります。ほ場毎に生育状況を観察し適切な施肥を実施する必要があります。穂肥は、必ず2回に分けて施用しましょう。（穂肥一発以外）

（葉色）夢つくし・元気つくし 4.2、ヒノヒカリ 3.8、にこまる 4.0 茎数 20本基準

（ハイマート C50・ハイライス 50 を施用） ※2回目の時期は1回目の施肥後1週間頃行なう。

	夢つくし	元気つくし	ヒノヒカリ	にこまる
6/10～6/20 田植え	1回目 7/18～7/23 ① 20kg ②10kg	1回目 7/23～7/28 ① 15kg ②15kg	1回目 8/1～8/6 ①15kg ②15kg	
6/20～ 田植え	1回目 7/22～7/27 ① 20kg ②10kg	1回目 7/26～8/1 ① 15kg ②15kg	1回目 8/3～8/10 ①15kg ②15kg	1回目 8/8～8/15 ①15kg ②15kg

◎穂肥一発 206 を使用する場合は一回目の時期に 20kg を施用しましょう。

◎葉色の判断・・・葉色板を使用する場合は、太陽に背を向け 3～4m 先の葉を見て判断する。葉色板を使用しない場合は、畔に生えているイネ科の雑草と同色であれば、3.8 と判断します。

◎増収のポイントは、穂肥全体量の 2～3割を畔回りに施用をする。

◎野菜跡、堆肥投入田等、葉色の濃い田は、色が落ちれば2回目の時期に色直し程度の施肥を行。

4. 病害虫

①ウンカ・・・現在、ウンカについては飛来数が少ない状況となっておりますが、今後発生する可能性があります。圃場の確認や稲作情報に十分注意しましょう。

②いもち病・・・本年は晴天の影響で、現在までいもち病発生は少ないが、今後の天候によっては大きく左右されるので、田周りをしっかりと行い、良く観察しておく必要があります。

使用薬剤 コルター2号F粉剤DL 3～4kg/10a

または、 ノンブラスフロアブル 1000倍

③紋枯病・・・昨年発生した圃場は発生が予想されます。また、高温で発生を助長するため注意！！

使用薬剤 コルター2号F粉剤DL 3～4kg/10a

または、 バリダシン液剤 1000倍

④カメムシ類・・・毎年発生しているカメムシですが、品質低下の1番の原因となっております。必ず下記の通り防除を徹底しましょう。

①稲の出穂前に畦畔の草刈りを行う。その際、雑草の穂が出穂する前に草刈りを行うことが重要。

②出穂14日後(乳熟期)頃に

キラップ粉剤3～4kg/反 または キラップフロアブル 1000～2000倍/反を使用し防除しましょう。目安としては、穂がくるぶいた頃が適期となります。

5. 雑草対策

水不足にて除草剤を散布できていない圃場については、中期除草剤にてしっかりと対策を行いましょう。

【ヒエ】

(液剤)・・・クリンチャーEW

ノビエ5葉期まで 薬量100ccを水70～100ℓに入れる。 落水後に処理

(粒剤)・・・ワンステージ1キロ粒剤

ノビエ4葉期まで 1kg/10a 湛水散布

【広葉雑草】

(液剤)・・・バサグラン液剤

イネ科を除く1年生雑草 薬量500cc～700ccを水70～100ℓに入れる。 落水後に処理

(粒剤)・・・バサグラン粒剤

イネ科を除く1年生雑草 3～4kg/10a 湛水処理

【ヒエ・広葉雑草】

(液剤)・・・クリンチャーEW+バサグラン液剤(適用、薬量は上記参照)

クリンチャーバスME

ノビエ5葉期 薬量1000ccを水70～100ℓに入れる。 落水後に処理

(粒剤)・・・カービー粒剤

ノビエ3葉期まで 1kg/10a 湛水散布

※雑草が小さいほど効果が高いため、除草剤は早めに散布すること。雑草が残ると穂肥が効かない、風通しが悪く病虫害発生を助長するなど、様々な問題を引き起こします。

※農薬散布の際は、周辺作物等に飛散がないよう十分注意してください！！

以上の管理を必ず徹底して頂き高品質・高収量を目指し、農協へ1俵でも多くのお米を出荷して頂きます様、宜しくお願い致します。

お問い合わせ 農畜産課 327-3912まで